

課題名：急性心筋梗塞の予後を改善する迷走神経刺激システム(ARiS)に関する開発・事業化

代表機関：アドリアカйм株式会社

分担機関：国立循環器病研究センター、株式会社SCREENホールディングス

全研究開発期間：2024/6/12～2027/3/31予定

背景・目的：急性心筋梗塞患者の救命率は向上している一方で、救命後に心不全へ移行する症例が一定割合存在し、臨床の大きな課題となっている。

- 急性心筋梗塞の救命後に心不全を発症し、長期的な療養を要する患者が増加している。（約20～30%）
- 心不全患者の約半数は、心筋梗塞を起因としており、慢性的な症状悪化への対応が求められている。
- 心不全治療の長期化は、医療費負担の増大など社会的課題にもつながっている（米国では年間数兆円規模とされる）

取り組み・成果：迷走神経刺激技術は、心筋虚血後の炎症反応や微小循環障害を抑制を通じて、心筋保護効果が期待されており、本事業ではその臨床応用を目指して開発を進めています。

- 迷走神経刺激システムARiS開発：安全性評価を中心とした非臨床試験（140項目以上）を実施
- 企業治験の準備：PMDAとの事前面談・対面助言を完了し、治験実施に向けた準備を推進

今後：日本国内での企業治験を実施し、迷走神経刺激技術を用いた新たな治療選択肢としての事業化を目指す。

- 日本国内での企業治験の実施

医療機器
対象疾患
目的
解決手段

新医療機器 クラスIV
急性心筋梗塞（STEMI）患者
急性心筋梗塞患者の心不全発症の抑制
迷走神経刺激技術

